



千葉大学医学部同窓会報 第130号 題字 故 鈴木五郎 (大11卒 元るの は な 同窓会長)

編集発行者
千葉大学医学部
るの は な 同窓会報編集部
〒260-8670 千葉市中央区亥鼻1-8-1
千葉大学医学部内
るの は な 同窓会
電話 (043) 202-3750
FAX (043) 202-3753
e-mail: idosokai@med.m.chiba-u.ac.jp
HP: http://www.inohana.jp/

るの は な 同窓会総会のお知らせ

今年度のるの は な 同窓会総会を左記により開催致します。同封の葉書にて出欠の返事をお送りください(6月15日必着)。

一、日時

平成14年6月22日(土)

午後2時より

一、場所

スカイウインドウズ東天

紅(千葉駅前そごう西隣

りセンチティタワー23階)

一、総会次第

会長挨拶

(1)会務報告

(2)議案

1 平成13年度決算承認

の件

(イ)決算報告

(ロ)監査報告

2 平成14年度事業計画

の件

3 平成14年度予算(案)

4 名譽会員の推薦につ

いて

5 役員の交代について

(3)報告事項

1 同窓会賞選考につ

いて

2 同窓会報関係

3 名簿発行について

4 千葉大学校友会につ

いて

一、各種教育助成金贈呈式

一、るの は な 同窓会賞表彰

式および受賞者挨拶

一、懇親会

午後5時~7時

会費 八千円(当日受付

にて申し受けます)

最終講義

公衆衛生学安達元明教授

の最終講義は、平成14年2

月8日午後3時30分より千

葉大学医学部附属病院第一

講堂において行われた。

「大気汚染研究30年」と題

して、昭和43年より吉田亮

名譽教授(元学長)らとと

もに行つてこられた千葉県

東京都、静岡県におけるフ

ィールド研究から、今日のデ

ィーゼル排出ガスの健康影響に

至るまで、大気汚染に関す

る疫学研究について縦断的

にお話しされた。講義終了

後、学生代表の謝辞、花束

贈呈に引き続き、第三講堂

にて祝賀パーティが行われ

たが、名譽教授をはじめと

する学内外の先生方、多数

第7回るの は な 同窓会賞受賞者決定

功労賞

志村昭光(結核予防会千葉

県支部副支部長、昭30)

「国内外での結核対策

千葉県での保健活動」

学術賞

喜多和子(千葉大医学研究

院環境影響生化学、講師

千葉大薬昭50)

「宇宙環境下における

ヒト細胞の新規ストレス

応答の発見」

田川雅敏(千葉県がんセン

ター病理研究部、部長、

昭54)

「難治性腫瘍に対する

遺伝子治療の基礎的臨床

的研究」

中尾篤人(順天堂大アトピー

疾患研究センター、講師

平元)

「腫瘍増殖因子メータ

(Transforming growth

factor- β : TGF- β) シ

グナルについての基礎的

ならびに臨床的研究」

吉留博之(千葉大医学研究

院臓器制御外科、助手、

昭63)

「STAT6活性化を介

した肝阻血再灌流障害

の制御に関する検討とそ

の臨床応用(Nuclear

Factor kappa B 活性

化制御との対比)」



の学生の参加により大盛況の内に終了した。
(公衆衛生学 島 正之)

安達元明教授



今野昭義教授

礎研究に力を注がれていらしたか、改めて敬服させられた。最終講義終了後、学生代表謝辞、花束贈呈が行われ、沼田助教授の閉会の辞により終了となった。引き続き、記念祝賀会が附属病院第三講堂で行われ、病院関係者、同門の諸先生、教授の同級生の方および学生が出席し、盛況の内に終了した。
(耳鼻咽喉科学 仲野公一)

るの は な 同窓会

学外研究助成募集

第4回(二〇〇二年度)るの は な 同窓会学外研究助成を募集致します。詳細は12面をご覧ください。

祝 叙 勲

平成14年 春の叙勲

勲三等旭日中綬章

久我 哲郎(昭26)

勲五等双光旭日章

青木 宣昭(専25)

中村 仁(昭32)

紙面紹介

就任の挨拶 2~3面

附属病院ニュース 3面

回想録 4面

第一高等学校医学部とは 4~5面

同窓会員著書 5面

各地るの は な 会だより 6面

クラス会 6~7面

医療事故を無くそう 7面

入学者・卒業生名簿 8面

人事異動 9面

常任理事会議事録 9~10面

るの は な 掲示板利用方法 10面

エッセイ 11面

学外研究助成募集要項 12面

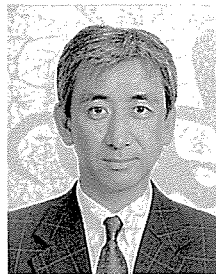
るの は な 同窓会ホームページに掲載板設置

るの は な 同窓会 HP(<http://www.inohana.jp/>)に掲載板が設置されました(詳細は11ページ)。同窓会についてのご意見等気軽に書き込んでみて下さい。特に若い会員の方々の書き込みをお待ちしております。

教授就任挨拶

弘前大学医学部外科学第一講座

福田 幾夫 (昭54)



平成13年12月1日より、故鈴木宗平教授の後任として弘前大学外科学第一講座を担当いたしました。

当教室は初代副島康治教授から57年の歴史を持ち、私は第5代目になります。教室のテーマは消化器一般外科のみならず心臓血管外科、呼吸器外科、移植外科と多岐にわたってまいりました。伝統ある教室を運営してゆく責任に身の引き締まる思いです。

私は昭和54年に千葉大学を卒業し、新設間もない筑波大学付属病院で外科研修を開始しました。2年間の初期研修では、外科系の主要診療科のみならず脳外科、整形外科、泌尿器科なども研修し、故岩崎洋治教授、故牧豊教授はじめ千葉大学の各分野の諸先輩方に御指導を受けましたことは、な

で、茨城県の移植コーディネーターとして、深尾立筑波大学教授、能勢忠男筑波大学教授の御指導のもと、茨城県内の腎提供のお手伝いをさせていただきました。

私の研究テーマは、心臓手術における脳合併症の予防です。この研究のためには、心臓外科医のみの知識では不十分であり、循環器内科医、脳外科医、放射線科医、麻酔科医など他領域の多くの専門家の知恵を出し合って臨床成績の改善につなげることができました。このような臨床研究ができたのも、初期研修で多くの診療科を経験し、診療科の垣根を越えて気軽に相談できる雰囲気筑波大学にあったことが大きな要因であると思います。

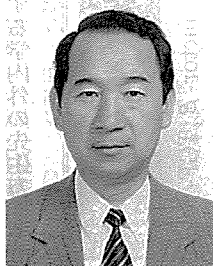
弘前大学附属病院は津軽地域の中核病院でもあり、循環器救急疾患の受け入れに熱心で、年間100例近くが急性心筋梗塞で入院しています。虚血性心疾患の治療には内科と外科が協力してあたっており、手術症例数も増えてきました。質の高い、患者さんの満足度の高い医療を提供してゆきたいと思っています。

弘前大学では、昨年より教員の任期制が導入され、教授の任期も10年で、緊張

感のある環境の中で仕事をしております。大学の使命である教育・研究にも力を注ぎ、全国から医師・研究者を集められる魅力ある大学に作り替えることを医学

帝京大学医学部臨床病理学

菅野 勇 (昭47)



平成13年4月1日付で帝京大学医学部臨床病理学教授を拝命し帝京大学市原病院病理部、中央検査部を担当させていただくこととなりました。

帝京大学医学部は板橋区加賀に医学部附属病院(1154床)、川崎市高津区に溝口病院(400床)、市原市姉崎に市原病院(550床、昭和61年5月に開院)の三附属病院があります。

市原病院病理部は初代担当教授として長尾孝一先生が赴任され同時に松崎理先生と私が加わり3人で出発しました。

私は昭和47年に千葉大学医学部を卒業後第一外科に入局し、奥井先生、庵原先

部の目標にしております。るのはな会の皆様からも、御指導と御支援をいただきますよう、宜しくお願い申し上げます。

生の下で細胞診を駆使する一般外科を研修しました。

その後、細胞診断学の向上のために、より深い病理学の知識が必要となり、昭和51年4月千葉大学第一病理の大学院生となりました。

大学院では人体病理学(テーマは乳癌)を専攻しました。大学院終了後、千葉大学第二病理の助手になり、昭和58年夏から1年間、Mayo Clinic, Surgical Pathologyにロータリー財団の奨学生として留学させて頂きました。最先端の外科病理学を目の当たりにして息を飲んだことが昨日のことの如く思い出されます。2年後、Mayoへの先輩留

学生であった長尾先生と市原病院でMayoに準ずる外科病理学を実践することとなりました。

市原病院病理部は「臨床に役立つこと」をモットーとして迅速診断、細胞診断

を積極的に行って来ました。

開院当初は現在の外科病理とは状況が異なっていて、手術標本を速やかに病理部へ提出してもらうことが可能になるのには、大分時間を要しました。生検材料には翌日、手術例には2日後に病理診断レポートを出すことを原則とし、学会発表論文作成等にも協力した結果、我々の目指す外科病理学は5-6年を経て理解してもらえようになりました。

私の目指す外科病理学は開院当初と同じで早く、正確な病理診断を出し、臨床即ち患者さんの治療に貢献することです。例えば治療前後の症例検討を積極的に行い、臨床医との意思の疎通を図っています。他に乳腺外来での穿刺吸引細胞診断の結果は約20分で出し、患者さんが長い不安な時間を持たないですむようにし

ています。現在の市原病院病理部には、開院以来16年間の外科病理標本(貴重例は電顕、凍結標本も)が整然と保存されています。今後は、これらの蓄積された貴重な人

病院長就任挨拶

松戸市立病院

藤塚 光慶 (昭43)



本年4月1日付けで第7代目の松戸市立病院院長を拝命しました。この病院は、昨年に創立50周年を迎えた、病床数631、医師総数123名、看護師約500名、全部で約1000

体標本に、数年前から初められている遺伝子解析等の分子病理学的手法を活用し、外科病理学を探究して行くつもりです。スタッフは分子病理学を得意とする石田康生助教授との4月からは山崎一人講師を迎える3人体制ですが電顕技師2名、病理検査技師7名、フォトセンター技師2名の優秀な人材に恵まれています。病理医の教育、大学院生の受け入れ、学会活動等に十分な環境ができています。今後とも、るの は な 同窓会の諸先生方にはよろしくご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

名近い職員を抱える、東葛北部地域の医療の中核を担っている病院です。

私が千葉大学を卒業した昭和43年は、前年に東大の安田講堂占拠事件など、全国的に学生運動が盛んだった時期で、千葉大学でも43卒、44卒が種々の問題で教授会との団交、国家試験ボイコット、記念講堂占拠など嵐が吹き荒れた頃でした。30年以上過ぎて、当時の、学生同士で傷つけあった心の溝がまだ深く残っている人もいます。

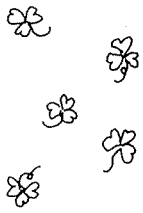
1年遅れで、千葉大学整形外科に入り、井上教授の教えを受け、船橋中央病院の斉藤隆先生に臨床医の基礎を学び、昭和46年に初めて松戸市立病院に勤務しました。ここで、篠原寛休先生(第5代松戸市立病院院長)と知り合ったのが、松戸で半生を送ることになったきっかけでした。患者さんを「学会研究の対象」としてみたり、「治してやる」などという傲慢な態度を廃して「医療はサービス業である」との立場から「より快適で、確実な医療を提供しよう」と意気投合したものです。

当時は、382床、医師数は23名の病院でしたが、松戸市の人口の増加に伴い、ま

た篠原元院長、今年の3月で退職された香西前院長らのエネルギーで、病院は増改築を繰り返し今日の大病院に発展してきました。

この2年間は香西前院長の強力な指導の元に、病院経営は改善してきましたが、今年4月の診療報酬改訂で今年は大幅な減収が懸念されます。「全国の病床数を減らして医療費を削減する」という国の方針で、このような厳しい改訂となったのでしょうか。医療界も聖域とせず、市場経済を導入し、経営を合理化して生き残った組織だけが、海外資本が導入されても太刀打ちできないということなのでしょう。

このような、厳しい情勢でも公立病院として、存続をかけてがんばることが患者さんに対しての使命であると確信しています。



附属病院 ニュース

病院長 伊藤 晴夫(昭39)

医学部附属病院の主な出来事(平13・10月〜平14・4月)

平成13年12月10日〜11日
附属病院生け花展

千葉大学小原流華道部と亥鼻地区職員有志による「生け花展」が病院外来ホール2階で開催された。これは行政サービスの一環として毎年行われているもので、今年で4回目を迎える。普段は殺風景な廊下が華やかな会場に変身し、患者様のみなさん職員も楽しませてくれた。

平成13年12月20日
院内コンサート

千葉大学医学部のはな音楽部および有志による恒例の「院内コンサート」が病院外来ホール1階で開催された。今回は季節的にクリスマスコンサートとなり、患者様および職員が大勢参加し、大盛況となった。

平成14年1月4日
駐車場増設

外来患者様駐車場スペースを見直し駐車場31台分を増設した。

平成14年1月23日
医療事故防止セミナーの開催

医療事故防止の一環として医療事故防止セミナーを開催した。当日は金沢大学医学部附属病院副薬剤部長古川裕之氏を講師に迎え、「薬物療法における安全管理ー部門間の連携ー」と題して講演が行われ、medication error に関する事例と部門間のコミュニケーションの重要性について説明があった。セミナーには医師、看護師、医療技術職員、事務職員など約200名が参加し、最後まで真剣に耳を傾けた。

平成14年1月29日
千葉大病院「医療安全標準」入選者表彰

附属病院では昨年の厚生労働省主催医療安全週間を機に、全職員を対象に医療安全に関する標語を募集。入選者5名に対し病院長から表彰状が手渡された。

平成14年2月6日
第3回有識者懇談会

この会は広く学外の有識者から自由な意見を聴取し、本院の改革と発展に資することを目的に、病院長の諮問機関として設置された。今回は主に病院改革と先端医療に関することを主題としたが、医療従事者では気づかないような斬新な意見がだされた。今後の参考としたい。

平成14年2月18日
安全管理室設置

3階エレベーター脇に美しい安全管理室が設置された。室長は平澤副病院長、専任のゼネラルリスクマネージャーは倉山富久子看護師長で、室員は医師・薬剤師・看護師・医事課職員の計13名である。医療安全体制の一層の強化が期待される。

平成14年2月23日〜3月2日
第一回看護師海外研修

看護師6名がオーストラリア国シドニー市のシドニー大学をはじめ5施設で海外研修を行った。附属病院を良くするために研修の成果が活用されることが期待される。

平成14年3月1日
全国国立大学医学部附属病院長会議常置委員会

平成13年度第5回常置委員会が東京医科歯科大学で開催された。主な議題は「国立大学附属病院の医療提供機能強化を目指すためのマネジメント改革について(提言)」であった。種々議論が行われ一部修正して了承された。これを受けて3月11日に常置委員長(千葉大学病院長)、小委員会委員長(九州大学病院長)、サワーキング委員長(九州大学副院長)が記者会見を行った。

平成14年3月8日
医学部附属3学校の卒業式

記念すべき最後の卒業生(看護学校37名、放射線技師学校25名、助産婦学校12名)が目度卒業した。

平成14年3月8日
医学部附属3学校の閉校式

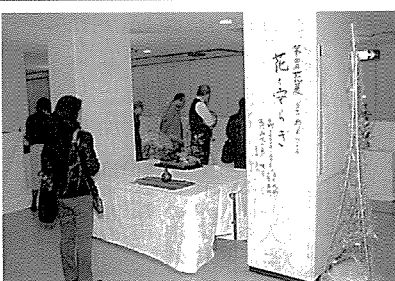
千葉大学医学部附属看護学校、同助産婦学校および同診療放射線技師学校の附属3学校は、平成13年限りで閉校になることに伴い、3月8日に附属3学校合同の閉校式が記念講堂で挙行された。附属3学校は、それぞれ輝かしい歴史を有し、多くの有為な人材を医療および教育を中心とする分野に輩出し、わが国の医療に貢献してきたが、長年にわたる使命を終え閉校となった。当日は磯野千葉大学長をはじめ多数のご来賓、卒業生など400名を超えるご臨席を頂いた。

平成14年3月18日
千葉大学医学部附属病院「地域医療連携室」の開設

患者様中心の医療を行うために地域における医療機関との連携がますます大切となってきている。病院機能に即した連携を進めるために立ち上げたものである。将来的には、医療福祉部や生涯教育なども含めた「地域医療連携センター」に格上げしたい。なお、電話043-226-2254、ファックス043-226-2654である。

平成14年3月28日
ピアノ寄贈

閉校となった附属看護学校より附属病院にグラランドピアノが寄贈された。外来ホールに置き、コンサートするときやBGM用に使用の予定。

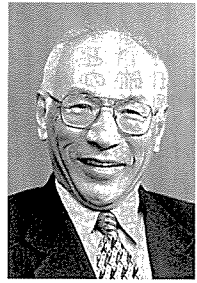


生け花展

回想録

(1)

中沢 弘 (昭31)



今から丁度50年前に、わ

が医学部に入学出来ました。今になっても、やはり立派な、特徴のある恩師が眼の前に浮びます。若い時に優れた指導者に会えたこと自体、人生の宝と云えます。特に中山恒明教授は、四十代で高名を馳せ、私達を励まして下さいました。四年間、研水寮の級友(志村公男、北川定謙、故山口豊、山野元)などと同じ金の飯を分け合って将来を語り合ったことなどまだ忘れられません。私は思い立って自立することを決め、寮生たちと検便などのアルバイトをしながら京成沿線の小学校などに通ったのです。いつも成田に着くたびに、この辺りかなどと車の中でひとり興奮しています。

特に文理学部で仲良しだった高橋英世君の落胆ぶりは忘れられません。人生の分かれ目はこんな酷なものかと数学の問題を解く心が乱れたのを覚えていています。二年生の時に、英国の山岳隊がエベレスト登頂に史上始めて成功したのに強い感銘をうけました。隊長のアーサー・ヒラリーが成功の半分は、先ず始めること、後の半分は、ただ続けることだと云ったのを覚えています。これは私の将来への指針になりました。又生理学の故福田(篤)教授に、秋田への高血圧の研究班に入れていただきましたが、夜十時の上野発の夜行列車に行列して入り、座席の下に新聞紙を敷いて寝るので、夜中一時頃、郡山辺りでしょつか、たたき起こされて、プラット・フォームの立食うどんを、一分で喰べ、又のりこんでまた寝るという軽わざを、諸先生とやったのを、覚えています。帰りはいつも日本海沿いになり、荒い海辺の温泉(たしか一宿六〇円)に入りながらみた落日の美しさは本当に凄みがありました。

三年生の時は志村、佐々木邦幸、蟹沢(関谷)晴子さんなどと一緒に演劇部のお手伝いをしました。カミューの「正義の人々」の革命児ステファンが私の役で、今から考えると、ただ舞台度胸だけでしたが、始めての大学祭を心からエンジョイしました。その頃から卒業後どうして生計をたてながら勉強出来るかを考え苦しみました。医局十年は無給外へ出て稼いで帰ってきて医局を続けるか、銀行頭取の娘でも貰って助けて貰うとか、色々あったのでしよう。当時、横須賀米海軍病院はインターンが宿舎つき月三〇ドル(一万円)で日本国中最高、しかも将来の渡米出来るチャンスもあるというのを耳にし、英語を習い始めました。学校はドイツ語、頭の中は英語といつも二分された生活が始まりました。私に出来たことはアメリカ映画の台本(日本語訳つき)を読み、東京へ出て日曜日は朝から晩まで三回たて続けにみるしかありませんでした。

アンパンとミカンだけで参りましたが次第に慣れて来て、又次の映画がたのしみになりました。中山教授にはアメリカもいけど行ったら一、二年ですぐ帰って来るか、長くて一仕事をやってから帰るかの二つしかない、中間はいけないよと言われたのを覚えています。四年生の時は臨床が忙しくて苦労しました。二、三の教授に「君は余り見たことがないね」などと、云われつらい思いもしました。とにかく余り勉強もせず、何とかきり抜けることが出来ましたがこれがアメリカへ行った後、苦労した源だったと気がつくのです。私は中山教授の推せんを得て、米海軍病院のインターン試験にのぞみ、幸いにも入れて戴きました。当時、皆、私と同じ考えと境遇の人が多かったのでしょうか、四人に五十余名の志望者が集まりました。筆答はともかく口答は大変でした。私はもう駄目だと何回も思いましたが、私の担当の海軍軍医大尉は、では家族の話をしろと云うのです。たまたま私の母は高崎市初めての女医(眼科医)だったのですが、先生は非常に興味を持たれて、会話がむしろ、たのしかったのを覚えています。この方はジョン・ホプキンス出身の内科医でHenry Holmesといいますが、後日、私の恩人となる方でした。晴れての卒業式には、その母も出席し

(父は病床にあり)、またクラスの後で、小池学長の祝辞に添えて答辞を読む機会を与えられて、今も身に沁みて感謝しています。

中沢 弘先生紹介

だ千葉の合格率は私の不手際で下げたくなないと祈っていました。

ところが、その後の国家試験では今度は、一年間のインターン英語から日本語にきりかえるので一苦労でした。口頭で故大井実教授に「なぜ胃潰瘍の出血は止まらないのか」ときかれ時々「I think...」とか「I believe...」という言葉がとび出し、「君、I think などというのではないんだよ」と云われ冷汗がどっと出たのを覚えていますが。でも先生はその時、良く説明もして下さいました。私の頭の中はもう渡米のこと一杯で、国家試験などどうでもいい、た

昭7 群馬県高崎市に生れる
昭31 千葉大学医学部卒業
昭31-32 横須賀アメリカ海軍病院インターン
昭32-36 渡米。メリーランド州ボルチモア聖アグネス病院(ホプキンス附属)で一般外科レジデント
昭36-37 同病院一般外科チーフレジデント
昭37 ボルチモア市にて一般外科開業
平4 ニューヨーク指庄学校卒業
平7 UCLA 医歯学校卒業。メデイカルアカデミクチュアリストとなる。鍼認定医試験合格。外科と鍼医師として開業

第一高等学校医学部とは

名誉教授 橘

正道 (東大昭29)

付属図書館亥鼻分館の展示コーナーに「亥鼻台をめぐる歴史」と題するパネルがあるが、ある来訪者がその内容に、本学の前身として第一高等学校医学部の名があることに強い興味をもち、主に旧制第一高等学校出身の本学の旧教員についてのまとめを同校の同窓会誌に投稿された。私はそれ

を讀み刺激を受け、かねてより関心のあった当時の学校制度を調べたのでここに紹介したい。

上記のパネルの記載は、「県立千葉医学校は明治とて第一高等学校医学部の名があることに強い興味をもち、主に旧制第一高等学校出身の本学の旧教員についてのまとめを同校の同窓会誌に投稿された。私はそれ

この間、日本人としてアメリカ初の医師会会長(ボルチモア市、会員170名)、副会長(メリーランド州、会員700名)ほか歴任。数多くのボランティア活動に参加し日米間の諸問題に関与、特に姉妹都市、州を通じて両国民の草の根外交に奔走し、1987年レーガン大統領にホワイトハウスにて「輝けるアジア系人」の一人として表彰される。

現在

・全米鍼認定医学学会長
(Chair, American Board of Medical Acupuncture, ABMA)
・全米鍼医学アカデミー幹事
理1 (Secretary, American Academy of Medical Acupuncture, AAMA)
・HMI (Helms Medical Institute) 講師他

校医学部および県立千葉病院と変わり、この亥鼻台に校舎と病院が新築された。高等中学校という名前は現代では奇異な感じを与えるが、当時全国で、高等中学校区が東京、仙台、京都、金沢、熊本の5つのみであり、官立の高等中学校医学部への昇格をめぐる、名古屋と争い、成功したのは有名である。長尾精一校長のすさまじい個人的努力によるといわれている。この時期、他所では多くの県立

「医学校が廃止されている」というものである。

本学（医学部）の前身はいうまでもなく千葉医科大学であり、さらに時代を溯ると大正13年（1924）以前は千葉医学専門学校である。

さらに明治36年（1903）以前が第一高等学校、第一高等学校（すく）に京都に移転した。

有名な森有礼が文部大臣を務める明治19年（1886）に帝国大学令が公布され、東京大学が帝国大学とされた（当時、本邦で唯一の大学であり、明治30年（1897）に京都帝国大学ができ、東京帝国大学と改称された）。

ほぼ同時に中学校令が公布され、第二次大戦前の我が国の学校体系の基幹ができた。

さて中学校は尋常中学校と高等中学校に区別された。現代の人が推測するよりはるかに高い教育課程である。明治25年頃、両者の中学校全体の卒業生が全国で1年間約一千人程度という数字から推測できよう。尋常中学校は後に単に中学校となるのだが、初めは県の予算で賄われるのはその県で1つのみとした。この中学校は第二次大戦後に高等学校へとつながっていく。

高等学校は文部大臣の直接の所管とし、全国を5

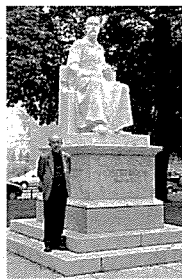
区に別けて、それぞれの区ごとにただ1校のみが設置された。本科2年、予科3年を置き、法、医、文、理、農、商の分科を設けることができた。それ以前にあった東京大学予備門は第一高等学校となり、大阪の大学分校は第三高等学校（すく）に京都に移転した。

第三高等学校（仙台）、第四高等学校（金沢）、第五高等学校（熊本）が設置された。さらに、恐らく当時の政治勢力の影響か、山口高等学校（山口明倫館の系譜をひく、半官半民、また鹿児島高等学校造士館（半官半民）が設立された。

これらの高等中学校には明治20年に、仙台、岡山、金沢、長崎、千葉にそれぞれ第二、第三、第四、第五第一高等学校の分科（修業年限4年）として設けられた。ここで注目されるのは、第一、第三、第五の医学部が主キャンパスとはかなり離れた、それぞれ千葉、岡山、長崎に設置されたことである。この後すぐに薬学科が付設されている。高等中学校の各学区はたいへんに大きく、第一学区は現在の関東地方のほか、愛知、静岡、山梨、長野の各県を含んでいた。そこで官立の医学部をどこに置くかを千

同窓会 員 著 書

桑田次男（昭19）



私は昭和58年本学を定年退職した。実験室を離れてからは最早原著論文を発表することはなかった。その代り、医学雑誌などの求めに応じて、その時々を書き短い随想と言う形で書き送った。その原稿三十数篇を「杏林閑歩」と題して数年前にまとめて発表した。この表題は私が若い頃から尊敬して止まなかった詩人木下太郎（太田正雄博士の「芸林閑歩」のひそみに

等学校（旧制）に変わり、本学の名前も変わった。さらに前述のように明治36年に本学は高等学校より分離され、独立の千葉医学専門学校となった。

まことに目まぐるしい制度の改革であったが、教育の充実を貪欲なくらいに追求した明治人の識見と活力の高さに強い感銘を受ける次第である。

当時私は若き日の関谷教授、そのほかの諸兄と共にヒトインターフェロンの多面的作用についての研究に従事しており、その成果をヨーロッパで開かれた国際インターフェロン研究会で発表するため渡欧することが多かった。

IIの部分ではベルリンの森鷗外私のルーヴェンフジツガムシの発見ロベルト・コッホの石像を訪ねてその他である。

リマの業績を紹介した。彼についてはこれまで日本では殆ど知られていなかった。次いで本学初代の細菌学教授であり、恙虫病の病原体 Rickettsia tsutsugamushi を1929年に共同研究者海野博士と共に確立した緒方規雄先生についての追悼文を掲げた。私達は緒方先生の最後の講義を聴いたクラスであった。

最後に数年前本誌に掲載した本学の先輩児玉誠博士の業績を紹介した一文が再録されてある。

前回その後に発表した随想、評論を加えて、「増補杏林閑歩」と題して前回同様丸善の製作で発表した。ここにその内容の大略を紹介したい。

この増補版では全体をI、II、III、IVの部分に分けた。Iの部分の表題の一部を記せば次の通りである。

ハイデルベルクの火花エルサレムを訪ねてブリエンツ湖畔の夏ジェイムス・ジョイスの墓

ゲート像の前の斎藤茂吉その他

ならったものであった。今回その後に発表した随想、評論を加えて、「増補杏林閑歩」と題して前回同様丸善の製作で発表した。ここにその内容の大略を紹介したい。

この増補版では全体をI、II、III、IVの部分に分けた。Iの部分の表題の一部を記せば次の通りである。

ハイデルベルクの火花エルサレムを訪ねてブリエンツ湖畔の夏ジェイムス・ジョイスの墓

ゲート像の前の斎藤茂吉その他

謝す

各地るのほな会 だより

多摩るのほな会

平成13年11月29日、多摩るのほな会(会長吉田 作先生)が立川グランドホテルにて開催されました。多摩るのほな会は、東京・多摩地区のるのほな同窓生の懇親を深め、情報交換の場として毎年1回開催されています。今回は、都立府中病院外科の松本潤先生(昭57)が講演、「腹腔鏡下胆嚢摘出術について」を話され、府中病院での約500例の経験のうち、最近の約100例に施行した3ポット法における工夫・長所などを報告し、質疑応答も行われました。その後の懇親会では、近況報告、記念撮影などを行い、旧交を温めました。ところ



ろで、病院勤務医の中で府中病院が一番の大家帯で、過去に同病院に在籍した会員も少なくありません。府中病院は、都立病院再編の中で、今後、多摩地区の広域基幹病院になります。こうした多摩地区の諸先生間の結びつきは、病診連携・病病連携の推進にも役立つものと期待されます。

出席者は以下のとおりです(敬称略)。正宗幹夫(昭14)、星野一郎(昭16)、清水 衛(昭19)、吉田作(昭23)、田口正義(昭26)、佐野迪雄(昭29)、野本和男(昭30)、鈴木 光(昭36)、菊池友充(昭47)、

西湘るのほな会

藤田 明(昭55)、松本潤(昭57)、松原公議(昭54)、山口伸幸(平5)、松尾直樹(平8)、河野正和(平9)

平成13年度西湘るのほな会総会が去る平成14年2月21日(木)に小田原市栢山駅近くの懐石・割烹料理「きらく」で催されました。

総務は安野憲一(昭48)、会計は渡邊浄(昭53)が担当しました。前会長の斎藤輝六先生(昭20)のご挨拶から始まり、平成14年1月3日に御逝去された宮内義之助先生(昭6・千葉大学法医学名誉教授)のご冥福を全員でお祈り申し上げました。引き続き今年1月1日より小田原市立病院長に就任された現会長福田淳先生(昭41)の祝賀会にうつりました。今回、入会された宮内好正先生(昭30・前熊本大学第一外科教授)は、昨年3月に深谷赤十字病院院長を退職され、現在パシフィックホスピタル理事長としてご活躍中ですが、御苦勞話を含め御近況のご挨拶がありました。また、地域外であります昭和55年卒の飯沼克博先生(秦野

市で開業)の新規入会が承認されました。この会で多数を占める小田原市立病院からは15名全員の参加があり、総勢38名中29名の76%の出席率で盛会を極めました。あわてて撮った集合写真は使い捨てカメラであったため光量が足らず不鮮明なものとなりましたが貴重な記念になっております。

当日の参加者は以下の通りです。



斎藤輝六(昭20)、吉田充(昭23)、大林泰(昭24)、霜島正雄(昭24)、菱木達明(昭24)、石坂修(昭25)、森本武志(昭25)、鈴木徳雄(昭26)、穂坂隆義(昭26)、福田俊夫(昭30)、宮内好正(昭30)、依田勇二(昭32)、福田淳(昭41)、安野憲一(昭48)、渡辺浄(昭53)、飯沼克博(昭55)、井上育夫(昭56)、川野裕(昭56)、河野典博(昭57)、星野和彦(昭58)、小山隆史(昭59)、田中英穂(昭60)、杉戸和寿(平元)、鶴梶実(平2)、池内哲(平

クラス会

もぐら会

(昭23卒)

クラス会報告は毎年長友伊東和人君が書いておりましたが、本年は同君が所用で欠席のため、本年度幹事の一人である広瀬が報告することになりました。拙文

の段ご容赦下さい。

もぐら会なる名称の由来は、同窓会報104号に伊東君が書いてありますが、既に7年前のことでもあり、同窓諸兄の中にはご存知ない方もおられると思いますので簡単に要点を再掲します。

私どもが入学した昭和19年10月には既に戦局利あらずで、連日のように本土に空襲がありました。授業中の空襲警報に大学連絡道路の下や防空壕に潜み、警報解除後また授業や実習にもどるといった状況で、20年7月には千葉市も空襲で焼かれました。

戦後は食糧も乏しく艱難辛苦の毎日でした。当時のことを忘れまいと小林康郎君の提案で、クラス会名を「もぐら会」とすることにしました。その後改称してはとの話も出ましたが、もぐら(土龍)もいつの日か土中より出て龍と化し、大

空を飛翔するであろうとの思いから、このまま続けようということになりました。事実クラスメートには、吉田亮元千葉大学長、市川平三郎国立がんセンター名誉院長をはじめ教授、病院長などのほか諸部門で要職にあった者が多数おり、花の23年といわれたことがあるそうです。昭和63年には千葉大学医学部学術奨励金を抛出するなどこうした面でも活躍しております。

さて前おきはこれ位にし



て、平成13年もぐら会は去る9月15日東京ステーションホテルで開催されました。(幹事は窪田金次郎、多賀谷譲二君と小生の3名)出席者は23名および本年度から夫人同伴を歓迎することになりましたので窪田、柴田両君の奥様2名が加わっての25名でした。例年クラス会の中心的存在であった吉田(亮)、伊東(和)、堀江の3君が所用あるいは健康上の理由から欠席であったのは聊か淋しい感もありましたが、他の顔ぶれは毎年変わらぬ元氣な顔をみせ、開会前から和氣藹々の雰囲気

が満ちておりました。定刻3時開会に先立って、今春急逝した黒須吉夫君をはじめ既に物故された方々のご冥福を祈って黙禱。広瀬司会で先ず窪田君が開会の辞を述べ、遅ればせながら今年から夫人同伴を歓迎することを提案し、まず率先して同伴したと愛妻ぶりをみせた挨拶があり、次いで萩原君の音頭で乾杯して祝宴に入りました。宴半ばで広瀬から窪田、柴田両夫人の紹介と、次回は更に多数の奥様方が出席されるようにと発言、次いで吉岡(宏)君から会計報告がありました。スピーチは特に指名せず自由に発言、談笑する形

式にしました。医療経営の苦労話、闘病体験、趣味の自慢話、中には政局批判と様々でしたが、その中にも何か年輪を感じました。定刻5時、多賀谷幹事から閉会の挨拶があり、次回の再開を約して散会しました。それにしても皆さんお年には見えない元氣な姿に接して、もぐら会もまだまだ継続できるものと心強く感じました。次回欠席の方も、次回は是非ともご参加頂きたいと思ひます。

なお来年は柴田君に幹事をお願いし、今年と同じ時期、同じ場所で行うことにしました。

(写真)

(前列右から)窪田夫人、柴田夫人、柴田鐵郎、岩間定夫、吉田作、伊藤力、高村良平、大津饒、萩原彌四郎、板垣修造

(二列目)窪田金次郎、市川平三郎、前田裕、木村滋吉、岡宏三、宮崎隆次、上野高次、小倉保己、多賀谷譲二(三列目)広瀬震一、工藤與一、有賀光、小沢智哉、平岡真、藤崎滋



近年、山紫会は一年一回規則正しく行われている。

お互いに年をとったためかもしれないが、旧友と集えることは嬉しいものである。今年は10月20日に神奈川県有(矢野)多、横山哲夫、高橋功が世話人となり、横浜の三溪園で行われた。

周知のごとく、ここは、生糸貿易商の原三溪による庭園。幸い好天に恵まれ、日のあるうちに到着した者は、庭園を巡り秋の宵を楽しむ。広い庭園の北側の鶴翔閣は三溪のかつての住まいで、横浜市の指定文化財である。我々は此処を借り

切って食事をし、又記念写真を撮った。

集まったのは24人であったが、千葉や東京からやや離れているのにも関わらず、長野の野口君など遠方の諸君も集まってくれた。しかし、前回の中心人物の多田富雄君や館野之男君の顔が見えなかったのが残念。次回は、千葉に戻って集うこ

とを約束して散会した。(高橋 功)



とを約束して散会した。(高橋 功)

- 出席者
- 東 紀男、石川 堯夫、五十嵐正彦、植田 伸夫、遠藤 幸男、清水順三郎、清水 精子、鈴木 博孝、鈴木 高彦、田口 勝、高橋 功、露崎 輝夫、永井 順、長尾 佳子、野口 徹男、飯田 静夫、飯田 暢子、藤田 昌宏、松本 博雄、谷島 俊雄、山田 明義、矢野 恒多、吉井 功、横山 哲夫
- (五十音順、敬称略)

医療事故を無くそう

村瀬 靖 (昭30)

薬の Anaphylactic shock (アナフィラキシー性ショック) や分娩、手術時の出血や DIC によるショックは意外と多い。アレルギー反応は薬が微量でも起こる事がある。一般に抗生物質の投与前、皮内反応テストが行われるようになったが、他薬剤の反応テストは余り行われていない。ショックは晴天の霹靂で起る事が多く、点眼薬でも、点鼻薬でもショックは起る。ショック治療の酸素、ソルコテフ、昇圧剤、DIC 予防のミラクリッド、点滴用輸液類を十分に備える。ショック時は呼吸も止まり、心停止もありうるから、閉鎖循環式麻酔器や Ambu 除細動器の準備は絶対必要である。人工妊娠中絶を行う際は、心電図、検血等術前検査を十分に行う。また子宮穿孔が、必ず起ると想定し、開腹手術の準備で行う。安産が予想される分娩でも、万一の子宮破裂に対応出来るように、手術室の整備と子宮壁の修復、帝王切開分娩術や単純子宮全摘術の手術の腕を常日頃から磨いておくべきである。患者の容

態が怪しくなったら、2次収容病院へ移送すればよいと云う考えは甘い。私は妊娠2、3ヶ月の人工妊娠中絶時でも、テフロン針を用いた、正中静脈点滴注射(乳酸加リンゲルか5%ブドウ糖液)を行い、自動血圧測定装置、Puls oximeter (パルスオキシメーター) Monitor ECG (モニター用心電図) を装着し、パルスオキシメーター値が、97を割ったら必ず閉鎖循環式麻酔器で、自発呼吸に Synchronise (同期) をさせ酸素を Mask で送るようになっている。児の胎内死亡や新生児異常は、避け難い症例もあるが、出生前診断を緻密に行う必要がある。妊娠中期や後期の胎児血流動態分析、即ち Impedance (RL, PD)、加速度、Velocity Histogram 及び羊水や脳背髄液 (Liquor) の混濁の程度を調べる為の Histogram 検査はこれから必須となる。CB (Cerebral Infant Palsy: 脳性小児麻痺) や分娩後の上肢麻痺は仲々厄介な後遺症である。CB に関しては、何時発症の徴があったかを、胎児の Middle Cerebral Artery (中大脳動脈) 等の脳動脈血流動態分析で、近い将来診断予想が出来る

かも知れない。Impedance 加速度、Velocity Histogram 分析が役立つようなので、現在更に多くの症例を集め、分析中である。医療関係者は常に最悪のシナリオを描ける訓練が肝要である。本学は東大と並ぶ関東の雄、るのな会員は卒後研修にも情熱を燃し、正しく且つ安全な医療の模範を示そうではないか!

第96回
医師国家試験成績

試験日 平成14年3月16日(土) 17日(日)・18日(月)
合格発表 平成14年4月25日(木)
受験者 106
合格者 95 合格率 89.6%
参考 国立 合格率 92.1%
全国 合格者 7881 合格率 90.4%
るのな同窓会 への寄附
内田威郎氏 (昭32) 十万円
白兔会 (昭17卒) 一万円

平成14年度 医学部入学者

〔北海道〕西 毅
〔茨城〕岡原 陽二
島居 傑 福島 紘子
〔栃木〕松岡 歩
〔埼玉〕丘 育容
緒方 英之 川嶋 雄平
黒住 顕 東ヶ崎 敬太
郎 松本 彩子
〔千葉〕麻生 佳子
石畑 奈津 岩佐 景一郎
大岩 宣博 大塚 雅代
小原由紀子 笠間 美香
片桐 諒子 木村 翔
齊藤 淳哉 鋪野 紀好
柴田 涼平 柴橋 慶多
鈴木 理紗 高柳 晋
武内 祥子 田中 望未
内藤 亮 西山 晃
野々村 咲子 長谷川 渚
林 健一郎 松島 可奈
松本 泰典 丸 裕吾
宮下 真理子 山本 健
〔東京〕安部 光洋
飯塚 慶 内山 なつみ
梅澤 弘毅 岡林 美紗子
小曾根 英 小田 紘子
笠木 祐里 柄沢 智史
喜多 絵美里 小堀 勤子
古屋 淳史 小山田 亮祐
白神 一博 水藤 広
高橋 誠 竹内 信喜
徳長 未識 刀瀬 智之
中川 量介 中澤 幸史
中島 温 中島 名律子

平成14年度 大学院医学薬学府入学者

中野 茂樹 橋本 亜希
畑 達記 広沢 直也
藤井 瑠子 細田 亮
宮地 康高 山岸 一貴
山口 教宗 吉野 晃平
興芝 茜
〔神奈川〕岩花 東吾
上段 あずさ 大澄 亜記
北本 匠 河野 貴史
穴戸 華子 下平 悠介
高橋 理彦 名和田 義高
西山 小百合 平田 晶子
宮澤 惇宏 吉元 絵美
〔山梨〕若尾 夏希
〔富山〕池原 甫
〔兵庫〕鈴木 敏夫
〔奈良〕野口 優
〔岡山〕今西 利之
〔愛媛〕石川 衛
〔熊本〕市村 洋平
本島 卓幸
〔大分〕北川 善康
〔鹿児島〕福本 一郎
スフィ ノール ハニ

〔加齢呼吸器病態制御学(肺研第二)〕五十嵐夏彦、小南 聡志、志村龍飛、日暮浩美、松原由、山川みどり、循環器病態学(内科学第三) 岡井 匡彦、川田貴之、秦穎潔、関根泰、館野馨、中山崇、長谷川美和、和田浩「老人精神医学(精神医学)」大掛真太郎、小池香、小泉裕紀、三森真実「環境労働衛生学(衛生学)」小松博幸、清水 茜、中島真樹、永島昭司、山龍一、渡邊京子、渡三佳
〔法医学(法医学)〕矢島大介「感染生体防御学(寄生虫学)」Ahmed Azza Kamal
〔環境生命医科学(解剖学第一)〕木島和恭、小池祐介、高島杏佳、西村太輔、福島民雄、山崎康司「高分子活性学(真菌医学研究センター)」飯田創治「病態検査医学(臨床検査医学)」内本高之、清宮 正徳、本村真理「放射線腫瘍学(放射線医学)」金親克彦、下総良太「胸部外科病態学(肺研第二)」常浩、守屋康充「口腔科学(歯科口腔外科学)」神津由直、肥後盛洋「耳鼻咽喉科学(耳鼻咽喉科学)」小野健一「整形外科学(整形外科学)」落合信靖、岸田俊一、齋藤朋子、銅冶英

雄、西尾豊、松本圭介、宮城仁、山田寛明「形態再建医学(形成外科学)」堀田十二、渡部慎司「消化器病態学(内科学第二)」稲田麻里、殿俊 白井嘉彦、須藤研太郎、中川 彰彦「肝胆脾外科学(外科学第二)」石田敬一、黒澤永、清水康仁、須田浩介、田辺直人、外岡亨、中野茂治、西村真樹、吉田一也「小児病態学(小児科学)」鈴木弘子、東浩二、村山圭「小児外科学(小児外科学)」中田光政、光永哲也「免疫発生学(免疫発生学)」稲見真倫、細川裕之「分化制御学(分化制御学)」熊埜御堂晴子「発生生物学(発生生物学)」吳迪、長谷川孝徳「遺伝子制御学(遺伝子制御学)」河野雅之「分子機能制御学(分子機能制御学)」牛島恭子、尾山和信、川口美穂「認知行動生理学(生理学第一)」吉田 普、Alex Ronald Lopez Rolon「視覚病態学(眼科学)」北橋 正康、張大威、西山香織「神経機能統御学(脳神経外科学)」町田利生「神経機能病態学(神経内科学)」石川千恵子、金坂俊秀、北野由紀子、鈴木浩一、平賀 陽之「遺伝子医学(生化学第一)」石原顕紀「分子腫瘍病理学(病理学第二)」小山敏尚「生殖機能病態学(産婦人科学)」鶴岡信栄「先端外科学(外科学第三)」井上雅仁、久保嶋麻里、郡司久、星野政、堀部大輔、米山泰生「臓器不全病態学(救急医学)」安部隆三、中田孝明「細胞治療学(内科学第二)」石川耕、大木美衣、大和田高義、大和田千佳子、加藤靖隆、柴崎学、陶山佳子、田中麻美、玉地 智宏、前澤善朗、峰崇子「分子代謝制御学(内科学第二)」伊藤昌史「基質代謝学(皮膚科学)」田村充



卒業生進路

千葉大(内科) 石橋啓如
今田浩史、清水怜、高橋正
憲、中本晋吾、藤本竜也、
吉川真太郎(内科) 鎌谷
洋一郎、高岡浩之、竹田勇
輔、橋香穂里、横田智生、
万代恭史(三内科) 岩田曜
川久保幸紀、北原秀喜、椎
名由美(放射線科) 河合繁
夫、東出高至(外科) 賀
川真吾、中島正之、丸山拓
人、代市拓也、横溝十誠
(外科) 加野将之、鈴木
理之、仁科洋人(整形外科)
見目智紀、鶴岡弘章、守屋
拓朗(眼科) 宇高靖、小林
紘子、柴玉珠、竹尾悟、辰

已智章、水野嘉信、泌尿
器) 金子鎮、高橋正行、宮
崎兼考(耳鼻咽喉科) 小林
直子、清水恵也、服部百合
恵、吉井淳(小児科) 有馬
聖永、荻田純子、村上智子
(精神神経科) 今井逸雄、
半田聡(麻酔科) 高橋和香
(脳神経外科) 池上史郎
(呼吸器外科) 藤原大樹、
和田啓伸(呼吸器内科) 伊
狩潤、石崎俊介、岩澤俊一
郎、露崎淳一、徳本みずき、
矢野利章、山内圭太(神経
内科) 赤荻悠一、澤井拱
(形成外科) 秋田新介、加
地竜士、笹原資太郎、手塚
崇文、古田美穂(救急部集
中治療部) 雨宮志芳、奥怜
子、篠崎広一郎、島田忠長
服部憲幸

東京大(内科) 神保りか
(産婦人科) 田島敏樹、長
谷川亜希子(皮膚科) 加藤
悦子(耳鼻咽喉科) 小西阿
希(脳神経外科) 佐藤真由
美
東北大(心療内科) 木村裕
子
横浜市立大(スーパーロー
テート) 大川雅樹
九州大(脳神経外科) 金屋
敷亨江
昭和(精神神経科) 上野
高尚
〔国立国際医療センター〕
神田真人、工藤陽子、坂田
礼、清水逸平

おくやみ

〔国立長崎医療センター〕
栗村真由美
〔日本赤十字社医療センター〕
本郷真紀子
〔千葉西総合病院〕 高田展行
〔国保旭中央病院〕 田中優子
〔武蔵野赤十字病院〕 関庚徳
〔横須賀米海軍病院〕
田代恭子
〔河北病院〕 外池範正
進学 寒竹政司

大野 俊雄 (昭6)
宮内義之介 (昭6)
上野 元男 (昭12)
住田 満也 (昭12)
森谷 恵 (昭13)
福原 公明 (昭16・3)
小川 直 (昭16・12)
松永 幹 (昭17)
村松大三郎 (昭17)
齋藤 敏郎 (昭17)
細谷 万夫 (昭19)
齋藤 弘 (昭21)
田中 康雄 (昭22)
堀江 昌平 (昭23)
松山 茂 (昭23)
中村誠一郎 (昭25)
鶴澤 眞美 (昭25)
野崎 浩次 (昭25)
藤枝 圭 (昭25)
五十嵐松二 (昭30)
関 博人 (昭31)
野口 愼 (昭35)
山崎 行雄 (昭54)

人事異動

千葉大学

助教昇任

循環病態医科学

吉田 勝哉 (昭53)

(同講師より)

講師昇任

環境生命医学

小宮山政敏 (東農工大昭57)

(同助手より)

循環病態医科学

桑原 洋一 (昭58)

(同助手より)

第三内科

永井 敏雄 (昭60)

(循環病態医科学助手より)

第一外科

清水 宏明 (昭61)

(臓器制御外科学助手より)

滝口 伸浩 (群大昭59)

(臓器制御外科学助手より)

麻酔科

磯野 史朗 (昭59)

(麻酔学助手より)

泌尿器科

戸邊 豊総 (旭川医大平元)

(遺伝子機能病態学助手より)

呼吸器外科

飯笹 俊彦 (群大昭59)

(胸部外科学助手より)

他大学

教授昇任

熊本学園大学

千葉県職員異動

豊田 直二 (茨城大理昭49)

(環境生命医学講師より)

病院長

琉球大学医学部附属病院

古謝 景春 (昭39)

(外科学第二教授)

本庁

永山 洋子 (昭48) 健康福

祉部副技監兼健康増進(こ

ども病院主任医長)

がんセンター

浅野 武秀 (昭44) 消化器

外科部長(千大第二外科より)

渡邊 敏 (北大昭50) 緩

和医療科部長(消化器外科

部長)

岩井 直路 (昭57) 主任医

長(医長より)

山本 尚人 (三重昭60) 乳

腺外科部長(医長より)

山本 直敬 (信州昭63) 肺

外医長(放医研より)

久山 順平 (平元) 医長

(千大放射線科より)

原 暁 (平5) 医長

(千大第二内科より)

循環器病センター

板橋 孝 (昭57) 整形外科

科部長(医長より)

熱田 藤雄 (日大松戸歯昭

55) 歯科部長(主任医長よ

り)

ピアス洋子 (昭57) 主任医

長(医長より)

杉森 邦夫 (昭60) 麻酔科

部長(医長より)

杉本 克巳 (平5) 外科医

長(下志津病院より)

斉藤 栄子 (平7) 眼科医

長(成田赤十字より)

上田 希彦 (平7) 内科医

長(松戸市立より)

救急医療センター

根橋 紫乃 (平7) 麻酔科

医長(昇任)

精神科医療センター

織田 宇一郎 (平7) 医長

(昇任)

ことも病院

星岡 明 (昭58) 医長

(千葉市立海浜病院より)

中島 弘道 (昭58) 医長

(船橋市立医療センターより)

角田 治美 (昭60) 医長

(千葉東病院より)

小林 一彦 (山形平4) 医

長(千大小児科より)

横山 曉子 (平7) 眼科医

長(千大眼科より)

留守 卓也 (平7) 耳鼻科

医長(老人総合研より)

東金病院

並木 隆雄 (昭60) 内科部

長(帝京大市原より)

岡嶋 良知 (昭58) 小児科

部長(ことも病院より)

吉田 正美 (昭59) 透析科

部長(医長より)

岩崎好太郎 (福島昭63) 外

科医長(千大第二外科より)

長(鹿島労災病院より)

川島 太一 (平7) 外科医

長(千大第二外科より)

花岡 英二 (日大平6) 整

外医長(昇任)

千葉県職員より退職

嶋田 文之 (昭37) 健康福

祉部技監

加藤軍四郎 (帯広大昭36)

衛生短大教授

田口 昇 (昭60) がんセ

ンター医長

柿沢 公孝 (昭63) がんセ

ンター医長(肺外)

塚本 和秀 (旭川平元) こ

ども病院眼科医長

飯塚 浩 (山形昭61) こ

ども病院外科医長

山崎 将人 (富山昭61) 東

金病院外科医長

円羽 直樹 (昭63) 東金病

院神経内科医長

三上 直登 (昭58) 東金病

院内科医長

佐久間洋一 (弘前昭60) 佐

原病院外科部長

松戸市立病院

藤塚 光慶 (昭43) 院長

(副院長)

川村 健児 (昭43) 副院長

兼診療局長(診療局長)

小森 功夫 (昭57) 小児科

部長(医長より)

田町 誓一 (昭49) 脳神経

外科部長(医長より)

栗山 裕 (昭和55) 小児

日本医師会代議員

(○の中の数字は選任回数

最下段は出身地区医師会名

藤森 宗徳(昭37)⑦千葉県

山口 国行(昭37)①長崎県

嶺井 進(昭38)①沖縄県

千葉県医師会新役員

(○の中の数字は選任回数

最下段は出身地区医師会

名を示す)

会長 藤森 宗徳(昭37)③千葉

副会長 鈴木 弘祐(日大昭39)②

井上 雄元(金沢昭39)①

市原

理事 木下 昌(昭38)⑤千葉

守 正英(慈恵昭44)②

監事 三枝 一雄(昭32)②

木更津

千葉県地区医師会長

長生

前田 昌利(昭32)

香取

龜谷 秀夫(順天大昭33)

八千代

杉岡 昌明(昭37)

平成13年度第3回常任理事会議事録

千葉 伯野 中彦 (昭37) (新)

海上 佐々木 守 (昭37)

国立 大塚 嘉則 (昭39)

習志野 梶本 伸一 (福島県大昭39)

匝 増田 武 (日本医大昭39)

大 税所 宏光 (昭40) (新)

市 鎌田 努 (昭41)

原 山 武

秋葉 哲生 (昭50) (新)

日時 平成14年2月27日(水)

16時30分～18時

場所 千葉スカイウインド

ウス東天紅(センシティ

タワー22階)

出席者 秋葉哲生、大井利

夫、大藤正雄、沖真澄、

小幡裕、笠川猛、神田収

茲、木内政寛、香田真一、

近藤洋一郎、税所宏光、

三枝一雄、佐藤甫夫、白

澤浩、関根博、滝口正樹

長澤仁一、道永麻里、武

彦、渡邊武

開会に先立ち、長澤会長

よりご挨拶があった。

議題

一、表彰者・昇任者の四金

会招待について

滝口理事より説明があ

り承認された。

二、平成14年度行事予定に

ついて

滝口理事より今年度と

の異同について説明があ

り、承認された。

三、給与等規定について

税所理事より、同窓会
職員の給与および退職金
等の規定制定について説
明があり、次回理事会に
おいて決定することとし
た。

四、「同窓会のあり方」検
討委員会について
矢野理事より、大学院
化に伴う諸情勢の変化に
対応するため、るの は な
同窓会のあり方を検討す
る必要性が指摘され、長
澤会長の提案により、委
員会を設けて検討するこ
ととした。

報告事項、その他
一、平成13年度中間決算に
ついて、税所理事より報
告があった。白澤理事よ
り、支部渉外費を一部充
当することにより、支部

ホームページを本部ホームページ内に設置することが可能との報告があった。

二、役員の交代について

神田収茲(会計)、秋葉哲生(会計監事)両新理事の御挨拶があった。

滝口理事より、学内理事の交代について説明があり、中島理事の後任として伊豫新理事(会計)を推薦する旨報告があった。

三、るのほな同窓会報次号の発行予定について、白澤理事から報告があった。

また、同理事から、ホームページQ&Aコーナーのメーリングリスト機能について説明があった。

四、千葉大学校友会設立総会が3月1日開催される旨、近藤副会長から報告があった。

五、預金のペイオフ対策について、適切な分散が望ましい旨話題になった。

四 金 会

引き続き同所で四金会が行なわれた。長澤会長の御挨拶に始まり、白澤理事の司会で、和やかに歓談の時を過ごした。御招待の日本医師会最高奨励賞御受賞者・内田威郎先生より御挨拶を頂いた。多くの会員の参加を得て、有意義な懇親会であった。

平成14年度第1回常任理事会議事録

日 時 平成14年4月24日
(水) 15時30分～17時10分

場 所 千葉スカイウイン
ドウズ東天紅・天
海の間(センシテイ
タワー22階)

出席者 秋葉哲生、大井利夫、大藤正雄、大浜博利、沖真澄、神田収茲、貫洞一夫、木内政寛、三枝一雄、佐藤甫夫、白澤浩、鈴木信夫、滝口正樹、長澤仁一、道永麻里、村瀬靖、矢野明彦、吉川広和、渡辺武

開会に先立ち、長澤会長よりご挨拶があった。

議 題

一、名譽会員の推薦について

鈴木理事より、平成14年3月に退官された安達元明、今野昭義両先生の名譽会員への推薦趣旨の説明があり、承認された。

二、昇任者の四金会招待について

鈴木理事より、説明があり、承認された。

三、平成13年度決算案について
木内理事より、決算内

容についての説明と、秋葉会計監事より、監査報告があり、決算案が承認され、総会に提案することになった。積立を次年度以降に見送ることとした。

四、平成14年度事業計画について

木内、矢野両理事より、説明があり、承認され、総会に提案することになった。今後、大学院化、独立行政法人化移行に伴う同窓会のあり方について具体的な検討を行なうこととした。また、同窓会員支援センターの設立について検討することとした。

五、平成14年度予算案について

木内理事より、説明があり、承認され、総会に提案することになった。支部支援費を増額することとした。

六、退職金規定について

木内理事より、同窓会職員の退職金の規定制定について説明があり、決定された。

七、るのほな同窓会賞選考結果について
木内理事より、選考委

員会による選考経過と、功労賞(1名)、学術賞(4名)の各候補者の推薦理由の説明があり、承認された。

八、総会議案について
鈴木理事より、平成14年度総会の日程、議案について説明があり、承認された。

九、宮園洋子先生チャリティーコンサート支援について
長澤会長、滝口理事より、説明があり、同窓会報における広報等の支援を行なうことが承認された。

報告事項

一、滝口理事より、埼玉支部常任理事および代行の交代について説明があり、阪理事の後任として吉川新理事を、同代行の後任として林田新代行を総会に推薦する旨報告があった。

二、白澤理事より、同窓会報130号を五月末発行予定の旨報告があった。ホームページに掲示板を設ける旨報告があった。

三、滝口理事より、今秋発行予定の同窓会会員名簿について、調査が順調に進行している旨報告があった。

四、木内理事より、「同窓

会のあり方」諮問委員会を設立予定の旨、報告があった。

五、木内理事より、千葉大学校友会設立総会が3月1日に開催された旨、報告があった。

四 金 会

引き続き同所で四金会が行われた。鈴木理事の司会で、長澤会長のご挨拶、井出名譽会長の乾杯ご発声に始まり、和やかに歓談の時を過ごした。

ご招待の先生方からのご挨拶に続き、多くの先生方からも近況、ご意見をうかがい、有意義な懇親会であった。貫洞参与のご挨拶で散会となった。

るのほな同窓会学外研究助成 (以下学外研究助成) 規定

第1条 目的と対象：本規定は本会会員(甲及び乙)の研究活動を推進するため、研究課題を公募し生命科学・臨床医学の進歩、健康と福祉の向上に貢献できる優れた研究に対し研究費の助成を行うものである。助成対象は国内外の大学ないし、それに準ずる研究所以外の施設で本会会員が代表者となつて行うものとする。

第2条 助成要項：本会は別に定める募集要項により年一回研究課題の公募を行い、優秀な研究数件に対し、助成を行う。募集要項はるのほな同窓会報に掲載する。助成金額については、常任理事会で決定する。

第3条 委員会：本会に学外研究助成選考委員会(以下委員会)を置く。委員会は会長の諮問に応じ、助成の候補となる研究課題の公募と選考を行う。

第4条 委員会の構成：委員会を構成する委員は6ないし8名とし、るのほな同窓会常任理事会の推薦に基づき、るのほな同窓会会長が委嘱する。委員の任期は2年とし半期に半数を改選する。委員の再任は妨げないがその期間は2期を超えないものとする。欠員が生じた場合、補欠委員の任期は前任者の残任期間とする。また、委員の互選により委員長を置く。

第5条 組織及び運営の細目：前条までに定めるもののほか、選考委員会の事務運営の細目については常任理事会の承認を得て委員会が定める。

第6条 助成研究の決定：助成研究の決定は選考委員会、常任理事会の議を経て会長が行う。決定された助成については課題名、研究代表者、研究施設名をるのほな同窓会総会及びるのほな同窓会報に公表する。

第7条 研究報告：学外研究助成を受けた代表研究者は一定期間内に、学術誌に公表された研究内容および、助成金の会計を本会に報告しなければならない。

付則 本規定は平成11年4月1日から施行する。

図1

ゐのはな掲示板ログイン

ゐのはなTOP | お読みください | アカウント登録 |

アカウントID

パスワード

ログイン

リセット

図2

アカウント登録

掲示板へ戻る | お読みください |

掲示板への発言には、アカウントIDとパスワードが必要です。適当なアカウントを決めて、連絡先のE-mailと一緒に会員登録してください。

パスワードの発行は、E-mailで通知します。

登録されたE-mailを公表することはありません。安心してください。

登録されたE-mailが、無効なものになった場合、登録を取り消します。

アカウントIDは、半角英数字で16文字以下を入力してください。入力したアカウントIDが、他の利用者によってすでに登録されている場合は登録できません。別のアカウントIDを決めて、再入力してください。

アカウントID

E-mail

登録

リセット

図3

ゐのはな掲示板

ゐのはなTOP | お読みください | アカウント登録 | パスワード変更 | パスワード再発行 | 管理者用 |

ネチケットを守って発言してください。発言にはアカウントIDとパスワードが必要です。

パスワードはこちらからすぐに発行します。こちらへどうぞ。

すでに登録済みでアカウント・パスワードをお忘れの方は、パスワード再発行へどうぞ。

アカウントID*

パスワード*

氏名、卒年

亥鼻 太郎 H14卒

タイトル

同窓会IT事業について

URL

http://www.inohana.jp/

メッセージ*

次の「ゐのはな」は5月末発行予定です。

送信

リセット

クッキーを消去

■学校や職場などでコンピュータを共有されている方は、利用終了時に「クッキーを消去」ボタンをクリックして、クッキーを消してください。

■削除は各発言のチェックボックスをチェックして、下にある削除ボタンを押してください。

「 同窓会IT事業について

by 亥鼻 太郎 H14卒

http://www.inohana.jp/

次の「ゐのはな」は5月末発行予定です。

Mon May 06 2002 20:08:03

返信

「 期待しています。by 亥鼻 太郎 H14卒

期待しています。

Mon May 06 2002 20:10:52

「 同窓会IT事業について

by 亥鼻 太郎 H14卒

http://www.inohana.jp/

次の「ゐのはな」は5月末発行予定です。

Mon May 06 2002 20:08:03

返信

■発言の削除

発言ごとの□にチェックし、パスワードを入れて「削除」を押してください。

パスワード

削除

図4

ゐのはな掲示板

利用方法

- 1 アカウント登録（この操作は最初に1回だけ行います）【図1・2】
 - (ア) 掲示板のトップページの右上にある「アカウント登録」をクリックする【図1】。
 - (イ) ユーザー名（半角英数字16文字以内）を決めて「アカウントID」の欄に入力して下さい【図2】。
 - (ウ) ご自分の電子メールアドレスを「E-mail」の欄に入力して下さい【図2】。
 - (エ) よろしければ、「登録」ボタンを押して下さい【図2】。
 - (オ) パスワードをお知らせするメールが送られます。

- 2 ログイン【図1】
 - (ア) 掲示板のトップページを表示させます。
 - (イ) 電子メールで通知のあった「アカウントID」と「パスワード」を入力し、「ログイン」ボタンを押します。
- 3 発言【図3】
 - (ア) ある話題について最初の発言は、一番上の欄を使って下さい。
 - (イ) まず、「アカウントID」と「パスワード」を入力して下さい。
 - (ウ) 氏名、卒年には、「氏名、卒年」を入力して

- 4 返信【図3】
 - (ア) ある発言に対するコメント等を掲示する場合下さい。卒年が記入されていない場合には削除されることがあります。
 - (エ) 発言にふさわしい「タイトル」を入力して下さい。
 - (オ) 「URL」は記入しなくても構いません。記入する場合には、ご自分のホームページのURLをご記入下さい。
 - (カ) 「メッセージ」欄に、メッセージをご記入下さい。
 - (キ) メッセージの記入が済みしたら、「送信」ボタンを押してください。

- 5 発言の削除【図3】
 - (イ) 発言と同様の手順で入力し、最後に「送信」ボタンを押すと掲示できます。
 - (ア) 自分の発言、返信を削除したい場合には、各発言の左側にあるチェックボックスをチェックし、ページの一番下にある欄にパスワードを入力し「削除」ボタンを押します。
 - (イ) 一番先頭の発言を削除すると、返信も同時に消えますので、ご注意ください。

エッセー

寿司なら沼津

望月良夫(昭30)

岩津先生の産婦人科教室に入学して2年たった或る日、教授室に呼ばれた。「君、来週から沼津へ行きますか」。

どの教授も研究・診療・教育の三本柱の頂点にあり、学位授与と人事の権限をもつ。

「はい」と即答、無給で独身だから気軽、沼津は御用邸のあった名勝地と知っていたし、千葉から電車で4時間ほどである。

赴任してみると果たして風光明媚、気候温暖の地であった。ほどなく岩津教授は退官、御園生助教授が昇任し新教授のもとに宿題報告が企画され、私はスタッフに加わるため帰局命令が出る。1年間の懐かしい思い出は狩野川台風の救助活動と魚河岸の寿司屋。住んでみた沼津を一口で言えば、中都市とはいふものの明るい空の田舎然とした港町、東京から近ければ人生をすごしたい処。

1965年から、7年間沼津市立病院に再び勤め、沼津市内に43歳で産婦人科病院を

開業、のち有床診療所に改めた。沼津に住んで37年、人生は縁である。

さて、沼津ほど寿司屋稼業に適した土地はないだろう。目前の駿河湾は水深500mで、ほっけなど北洋特有の魚を除けばあらゆる魚介類が沼津港に揚がる。握り寿司につきものの山葵は、伊豆半島大城山が近いから良質の山葵が安く入手できる。次に、大振りの湯呑みでサービスされるアガリ、旨さのなかにちよびりに

が味と渋味のある駿河産蘘北茶。最後に水だ。アガリはもちろん、調理に使う水道水は富士山の湧水で、1985年(昭60)全国水道水コンクールで1位だった。市販のどのミネラルウォーターよりもわたしの口に合う、料理の究極の味は水によると思う。

後半生を沼津で暮らして、毎週欠かさず格子を引くのは「双葉寿司」、魚河岸に接する食道街中央の3階建てに大きな電飾看板が目立つ。1階がカウンター14席と椅子席、2階が70名収容

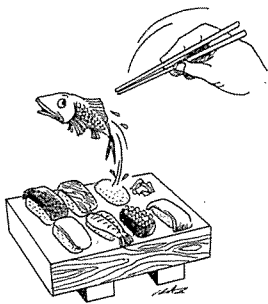
の追い込み座敷である。

椅子席の鴨居に御商の千社札をずらりと並べ、脇に九谷焼の大皿を配して老舗の貫禄を出す。席の予約が出来ない店なので、開店の11時半にはカウンターを目指す客が行列する。

代表的な馳走である握り寿司はカウンターに限る。双葉の場合、40種のネタが並び、色とりどり形さまざまのネタを眺め、どれにしようかと思索する。注文を握る職人の手つきを眺めていると目の前に2貫並ぶ、食べたかと思つたのだから旨さは倍、味わい終わってガリで口を直し、次を物色する。生えび、生げそも珍しいが、生しらすという鰯の子は、水揚げから2、3時間の歯ごたえとほろ苦さが、沼津ならではの口福である。

この、沼津が誇る名店の親方、1922年(大11)生まれの高島貞夫さんから営業の信念を尋ねたことがある。

従業員は背後の家族まで目の届く30名まで、寿司屋をめざす人は吾が子と扱い、7年で一人前にするが、暖簾は分けない。客は平等でポトルキープさせないし、予約もとらない。気が散



マシマ、フナリ、カズ

るからテレビやBGMは不可、ガリ、ギョク、サビは自家製を貫く。『最低の料金で出来る限りの良い味を出し、客の半分が満足すればよい』と言いつつ。

私より7歳年長の親方の朝は早い、7坪の仕込場の中央にデンと構え鰯をさばき、競りおとした魚介を一刻も早くカウンターに並べる形に仕込む。まわりでは数人の若い衆がテキパキと動く、雑然としているものの、働かばりに無駄口はなく見るからに面白い。

狩野川台風の頃はこの仕込場が店であった。その頃、まわりで小学校へあがる前の姉弟が遊んでいた。あれから40年余り、由美ちゃんは近くに嫁いで子育てが終わり双葉寿司に勤めて親方を援けている。栄ちゃんは湯河原の名門料亭での修業を終えてこれまた親方の片腕として上げみやがて二代目を継ぐとしている。

第4回のはな同窓会 学外研究助成募集要項

第4回(2002年度)のはな同窓会学外研究助成の応募を左記により受け付けます。

一、助成対象 本会会員(甲および乙)で、大学およびそれに準ずる研究所以外の施設に勤務している医師および歯科医師が、個人またはグループの代表となつて行う研究。

一、助成金 本年度の助成総額は350万円とし、1件につき50〜100万円を予定しています。

一、応募方法 6月1日から7月31日までに申請して下さい。申請用紙は同窓会事務室宛に請求して下さい。

一、助成研究の決定 選考委員会および常任理事会の議を経て、会長が行います。審査結果は2002年11月末までに各申請者に通知すると共に、のはな同窓会報に掲載します。

一、問い合わせおよび申請用紙請求先 千葉大学医学部内のはな同窓会事務室

右選考は「るのはな同窓会学外研究助成規定(10面に記載)」にもとづいて行われます。

宮蘭洋子(昭45)

チャリティー・コンサート

(チャリティー先 千葉市社会福祉基金)

日時 2002年11月21日(木)
19時より

場所 千葉文化センター
ホール

演奏 久保田廣和グループ
枯葉、小雨降る後、
カミニート、ナポリ
は恋人などジャンソン
ン・タンゴ・カンツォー
ネを全20曲

入場料 四千元
お問い合わせ・チケット申込
オフィスみやぞの



TEL 03-5660-3479
FAX 03-5704-4224
http://home.catv.ne.jp/pp/miyazono/

編集後記

るのはな同窓会では、同窓会の活性化に若い会員の力が必須であると考え、気軽な意見交換の場としての掲示板をるのはな同窓会ホームページ内に設置致しました。

当初は掲示内容に制限を設けませんが、同窓会への希望・意見・近況等何でも結構ですので、是非一度掲示板システムに訪れ登録してみ下さい。いずれ、目的に応じた複数の掲示板に発展させていく予定であります。Q&Aコーナー(ganda@inohana.jp 129号20頁参照)も是非ご利用下さい。

(白澤 浩 昭57)